

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2013年41週 (10月2週 10/7~10/13)
2013年9月報

愛知県感染症情報センター (愛知県衛生研究所内)
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>
E-mail : eiseiken@pref.aichi.lg.jp
連絡先 : 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

麻しん・風しん・先天性風しん症候群、RSウイルス感染症、腸管出血性大腸菌感染症、手足口病
病原体検出情報
定点医療機関コメント
感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎、手足口病、溶血性レンサ球菌感染症等

全数把握感染症発生状況 ()内は件数。
結核(32)、細菌性赤痢(1)、腸管出血性大腸菌感染症(3)、デング熱(1)、レジオネラ症(2)、後天性免疫不全症候群(4)、侵襲性インフルエンザ菌感染症(1)、侵襲性肺炎球菌感染症(1)、梅毒(1)、風しん(7)
2013年9月報
定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

トピックス

麻しん・風しん・先天性風しん症候群 (10月16日現在)

愛知県の2013年の麻しん報告数は、22件(0歳5名、1歳4名、2歳以上15歳未満4名、15歳以上9名)で、予防接種歴別にみると、接種歴無12件、有4件、不明6件です。麻しんの診断時には発生届と併せて、患者検体の提出をお願いいたします。風しん報告数は8件増加して347件、先天性風しん症候群報告数は2件です。

【参考ページ】麻しん患者調査事業における麻しん患者発生報告状況

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl_2013.html

麻しん・風しんの予防接種は2回受けましょう

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hi_4.html

<速報> 渡航歴のない麻疹集団発生からのB3型麻疹ウイルス検出 愛知県

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/measles-m/measles-iasrs/3991-pr4052.html>

「先天性風疹症候群に関するQ&A」(9月30日更新)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/crsqa.html>

「風疹流行および先天性風疹症候群の発生に関するリスクアセスメント第二版」(9月30日更新)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/2145-rubella-related/3980-rubella-ra-2.html>

RSウイルス感染症(図1)

41週の定点当たり報告数は0.71、40週130人 41週130人で(0歳48名、1歳47名、2歳15名、3歳7名、4歳10名、5~9歳3名)で、2歳未満の報告数が全体の73%を占めています。

【参考ページ】

「RSウイルス感染症に関するQ&A」(平成25年9月25日)

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html

腸管出血性大腸菌感染症(表)

愛知県の2013年報告数(診断週別)は、10月16日現在198件(O157 120件、O26 43件、O121 7件、O103 7件、O111 2件、O145、O165 各1件、型不明 17件)、うちHUS発症例は9件です。

【参考ページ】病原大腸菌

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html>

腸管出血性大腸菌感染症の発生について(9月14日発表)

<http://www.pref.aichi.jp/0000064939.html>

腸管出血性大腸菌感染症の発生について(9月9日発表)

<http://www.pref.aichi.jp/0000064766.html>

腸管出血性大腸菌感染症の発生について(8月27日発表)

<http://www.pref.aichi.jp/0000064294.html>

手足口病

41週の定点当たり報告数は1.10、40週274人 41週200人(0.73倍)です。2013年に搬入され検査が終了した90検体のうち、38検体からCV(コクサッキーウイルス)-A6型、22検体からエンテロウイルス71型、2検体からCV-A16型、1検体ずつCV-A5型、CV-A8型、CV-A9型が検出されています。(グラフ総覧参照)

【参考ページ】

疾患別ウイルス検出情報

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

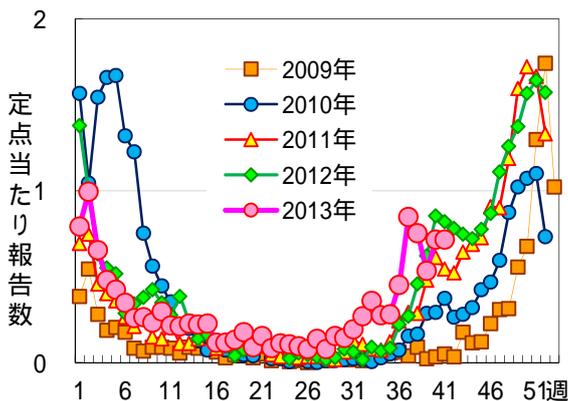


図1 RSウイルス感染症

表 腸管出血性大腸菌感染症

O血清型別報告数及びHUS*発症数

(愛知県、2013年は10月16日現在)

O血清型	2011年	2012年	2013年
O157	98	99	120
O26	6	36	43
O121	3	2	7
O103		5	7
O111	1	8	2
O145	2	3	1
O165		1	1
その他、不明	11	9	17
患者報告数総計	121	163	198
うちHUS発症者数	4	2	9

*溶血性尿毒症症候群

病原体検出情報 2013年疾患別ウイルス検出速報 (2013年10月15日現在)

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	* インフルエンザ	* * 麻疹・風疹
患者数	185	93	38	13	17	36	16	188	46(34)
CV-A4	-	-	1	-	-	-	-	-	-
CV-A5	-	1	7	-	-	-	-	-	-
CV-A6	-	38	6	-	1	-	-	-	1
CV-A8	-	1	8	-	-	-	-	-	-
CV-A16	-	2	-	-	-	-	-	-	-
EV-71	-	22	1	-	-	7	-	-	-
CV-A9	-	1	-	-	-	-	-	-	(1)
CV-B3	1	-	-	-	-	2	-	-	-
E-6	-	-	-	-	-	2	-	-	-
E-18	1	-	-	-	-	2	-	-	-
E-30	1	-	-	-	-	1	-	-	-
FluAH1pdm09	-	-	-	-	-	-	-	6	-
FluAH3	-	-	-	-	-	-	-	106	-
FluB	-	-	-	-	-	-	-	55	(1)
MeV	-	-	-	-	-	-	-	-	14(4)
RSV	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
RUBV	-	-	-	-	-	-	-	-	5(11)
Rota A	3	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G1	66	-	-	-	-	-	3	-	-
Rota A G3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
NV-GI	1	-	-	-	-	-	-	-	-
NV-GII	60	-	-	-	-	-	2	-	-
SV	5	-	-	-	-	-	1	-	-
AstV	3	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	-	-	-	2	-	-	-	-	-
Ad-2	13	-	-	2	-	-	-	-	2(2)
Ad-3	4	-	-	3	-	-	-	-	(1)
Ad-4	-	-	-	1	6	-	-	-	-
Ad-5	1	-	-	1	1	-	-	-	-
Ad-41	12	-	-	-	-	-	-	-	-
B19V	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)
HSV-2	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
検査中	6	3	2	2	-	1	1	-	5(1)
陰性	57	25	13	2	9	21	10	21	18(11)

*インフルエンザは2012/2013シーズンの検査結果

**麻疹・風疹の()内は病原体定点医療機関外からの患者数の別掲

略: ウイルス名(他の略名)

Ad: アデノウイルス、AstV: アストロウイルス、B19V: ヒトパルボウイルスB19、CV: コクサッキーウイルス、E: エコーウイルス、EV-71: エンテロウイルス71型、FluAH1pdm09: インフルエンザウイルスA(H1)2009、FluAH3: A香港型インフルエンザウイルス、FluB: B型インフルエンザウイルス、HSV: 単純ヘルペスウイルス、MeV: 麻疹ウイルス、NV: ノロウイルス、Rota A: ロタウイルス A、RSV: RSウイルス、RUBV: 風疹ウイルス、SV: サボウイルス

定点医療機関コメント(名古屋市除く)

尾張西部地区

まだRSウイルスが散見されます。

溶連菌は週3人ぐらいで続いています。

【犬山市 武内医院】

感染症少なく落ち着いています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

流行性耳下腺炎の小流行あり

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

アデノウイルス 1歳男

【清須市 丹羽医院】

尾張東部地区

手足口病1例のみ

感染症は落ち着いております。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

RSウイルス感染が流行しつつあるようです。

【春日井市 春日井市民病院】

RSウイルス感染症、溶連菌感染症、手足口病
少々 水痘やや増加

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

特記すべきものはみられません。

【小牧市 志水こどもクリニック】

14歳女 マイコプラズマ

7歳男 カンピロバクター(+)

6か月男 RSウイルス(+)

8か月女 RSウイルス(+)

2歳男 サルモネラO7(+)

3歳男 病原大腸菌O25(+)VT(-)

【大府市 まえはらこどもクリニック】

RSウイルス感染症 2名

(3歳、2歳患児は1年前にも罹患しています。)

マイコプラズマ感染症 2名(3歳5歳)

【東海市 もしもしこどもクリニック】

西三河地区

StrepA(+) 3歳男、5歳女

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

アデノ(咽) 男11歳、女14歳、4歳

病原性大腸菌O103(+)VT(-) 2歳女

病原性大腸菌O1(+)VT(-) 7歳男

アデノウイルス感染症がやや多いようです。

【岡崎市 花田こどもクリニック】

13歳女 マイコプラズマ

【岡崎市 にいのみ小児科】

1歳男 病原大腸菌O25

15歳女 カンピロバクター、病原大腸菌O1

7歳女 サルモネラO7

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

マイコ気管支炎 1名(10歳)

【刈谷市 田和小児科医院】

東三河地区

2歳男 サルモネラO9

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2013年10月16日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun130506.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2013年41週報告数			2013年総計(1～41週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	19	4	6	648	171	149
豊田市	1			54	12	14
豊橋市				53	12	19
岡崎市	3		1	51	12	16
一宮	2	1		99	33	25
瀬戸	4	3	1	109	24	24
半田				54	23	18
春日井				74	26	6
豊川				45	8	7
津島				69	20	22
西尾	1		1	31	11	4
江南				48	8	16
新城				5	2	
知多	1			85	27	32
師勝	1			17	3	4
衣浦東部				79	31	10
合計	32	8	9	1,521	423	366

細菌性赤痢（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	推定感染地域
1	名古屋市	48歳	男	10/5	10/6	10/9	タイ

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	一宮	77歳	女	-/-	10/7	10/10	O165、VT2(+)
2	豊川	8歳	男	10/3	10/8	10/10	O111、VT型不明
3	津島	18歳	男	10/3	10/3	10/8	O血清型不明、VT型不明

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

デング熱（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	瀬戸	29歳	女	デング熱	ミャンマー

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	豊橋市	54歳	男	肺炎型	国内
2	西尾	60歳	男	肺炎型	国内

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	39歳	男	無症候性キャリア	性的接触	アメリカ合衆国
2	名古屋市	46歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
3	名古屋市	26歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
4	名古屋市	31歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内

侵襲性インフルエンザ菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	87歳	男	不明	国内

侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	知多	45歳	男	不明	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	29歳	男	無症候	性的接触	国内

風しん（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	62歳	男	不明	国内
2	名古屋市	18歳	男	不明	国内
3	名古屋市	41歳	男	不明	国内
4	名古屋市	27歳	女	無	国内
5	名古屋市	15歳	女	無	国内
6	豊橋市	41歳	男	不明	国内
7	瀬戸	33歳	男	不明	国内

9月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況〔()は無症状病原体保有者再掲。〕

2012～2013年に報告のあった 疾病名及び病型		2013年9月			2013年	2012年
		愛知県	名古屋市	愛知県全体	累計	総計
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	0
二類 (5)	結核	95 (23)	77 (28)	172 (51)	1,455 (346)	1,942 (485)
三類 (5)	細菌性赤痢	1 (0)	1 (1)	2 (1)	15 (2)	13 (1)
	腸管出血性大腸菌感染症	49 (21)	13 (0)	62 (21)	189 (54)	163 (59)
	腸チフス	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)
	パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)
四類 (43)	E型肝炎	0	0	0	1	1
	A型肝炎	0	0	0	3	7
	チクングニア熱	0	0	0	1	0
	つつが虫病	0	0	0	1	2
	デング熱	1	1	2	11	13
	マラリア	1	0	1	6	3
	ライム病	0	0	0	0	1
	レジオネラ症	3	2	5	40	50
五類 (18)	アメーバ赤痢	2	2	4	52	62
	ウイルス性肝炎	0	0	0	10	12
	内訳					
	B型	0	0	0	6	11
	その他	0	0	0	4	1
	急性脳炎	0	0	0	21	21
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	9	11
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	0	2	8	11
	後天性免疫不全症候群	2	8	10	68	117
	内訳					
	無症候性キャリア	1	6	7	44	74
	AIDS	1	1	2	23	39
	その他	0	1	1	1	4
	ジアルジア症	0	0	0	2	2
	髄膜炎菌性髄膜炎*	-	-	-	0	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症*	1	1	2	7	-
	侵襲性肺炎球菌感染症*	0	1	1	49	-
	先天性風しん症候群	0	0	0	2	0
	梅毒	3	0	3	39	39
	内訳					
	無症候	1	0	1	16	21
	早期顕症	2	0	2	20	13
	晚期顕症	0	0	0	3	5
	破傷風	1	0	1	2	4
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	6	5
	風しん	4	7	11	338	98
	麻しん	7	0	7	22	39
	総計	173	113	286	2,361	2,620

* 2013年4月1日から、5類感染症(全数把握対象疾患)に「侵襲性インフルエンザ菌感染症」及び「侵襲性肺炎球菌感染症」が追加されました。なお、この2疾患()を除く細菌性髄膜炎については引き続き基幹定点把握対象疾患です。同じく5類感染症の「髄膜炎菌性髄膜炎」が「侵襲性髄膜炎菌感染症」に変更されました。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2013年9月			2013年 累計	2012年 総計
		愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	96	64	160	1,339	1,620
	性器ヘルペスウイルス感染症	35	27	62	542	709
	尖圭コンジローマ	19	9	28	278	358
	淋菌感染症	40	25	65	522	637
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	78	11	89	902	1,361
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	6	0	6	58	120
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	1	9	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0

感染症の類型及び定義(感染症法)

2013年5月6日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (5疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。鳥インフルエンザ(H5N1)が平成20年5月12日の法改正により従前の四類感染症鳥インフルエンザから除かれ、二類感染症に追加された。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症 (44疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症* (1疾病)	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

* 2013年5月6日から、指定感染症に「鳥インフルエンザ(H7N9)」が追加されました。

